



・九州北部地方では、今後1か月(5月8日～6月7日)の気温は平年より高く、降水量は平年並～多く、日照時間は平年並～少ないと予想されています。

### 1. 田植え適期について

- ・令和2年産の豊後大野市のヒノヒカリ1等米比率は**70%**となっており、格落理由は**白未熟粒**による格落ちがほとんどとなっています。
- ・「ヒノヒカリ」は、**出穂後20日間の平均気温が26℃以上の高温**になると**白未熟粒**の発生が多くなります。
- ・白未熟粒が発生すると検査等級が落ちる(価格低下)だけでなく食味も低下します。
- ・**出穂期以降の高温を回避**し、白未熟粒のない「**おいしい米づくり**」を推進するためには、適期に**田植え**をしましょう。(極端な早植えは避けて下さい)

表 標高別の田植え適期

200～300m	6/5～6/15
100～200m	6/15～6/20
0～100m	6/20～6/25

### 2. 除草剤(初・中期一発剤)散布時の注意点

・散布の時期や対象雑草は、除草剤ごとに異なります。散布前に、農薬ラベルの内容を必ず確認してください。

1) **除草剤散布時は、出来る限りの深水にする。**

※田植同時散布は、浅水で植付け後**すみやかに、ゆっくりと入水し、水口の薬剤が流れないようにする。**

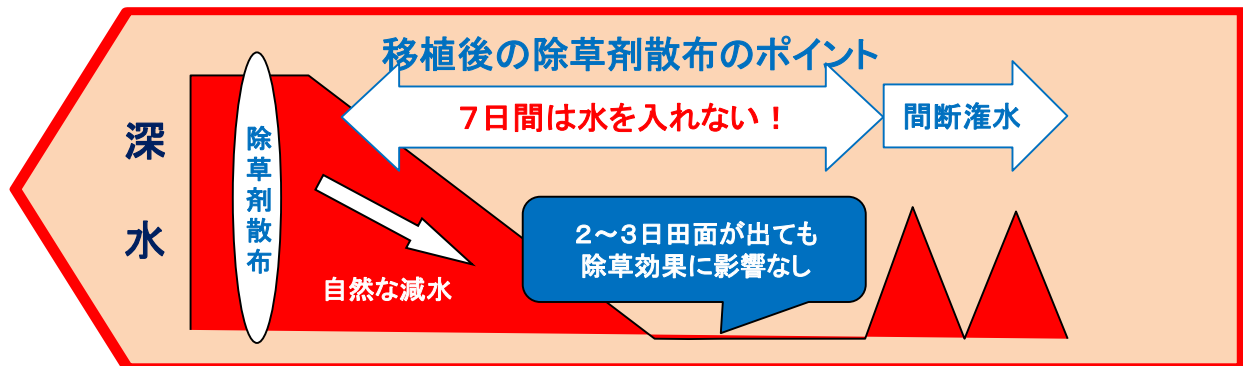
※ ジャンボ剤や豆つぶ剤は、**田全体の水深を5cm以上にして散布(強風に注意しましょう)。**

2) 処理後3～5日間は水深3～5cm

3) 水口と水尻をしっかり止め、**散布後7日間は落水や掛け流しをしない。**

(2～3日田面が露出しても除草効果に影響しないことが確認されています。)

4) 処理直後の多雨を避ける(水尻からオーバーフローさせない)



※田面が露出しそうな場合は、**ゆっくりと差し水をする**